

虹のかけ橋

【特集】

鳥取生協病院のリハ職 第3回「理学療法士」



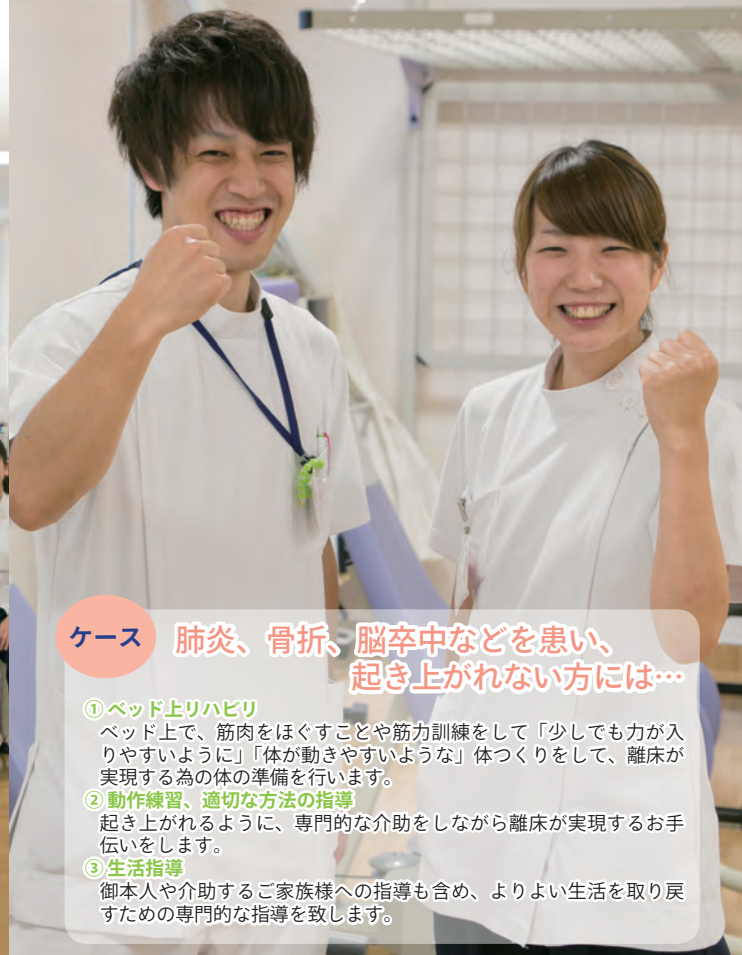
22
SUMMER2016

【特集】

鳥取生協病院のリハ職 第3回「理学療法士」

当院のリハビリと理学療法士について
「身体づくり」と「生活動作」の専門家です

理学療法士は、「身体づくり」と「生活動作」の専門家です。当院では、4月に新設した地域包括ケア病棟および90床に拡大した回復期リハビリ病棟でのリハビリを強みとした医療活動を行っています。70名以上のリハスタッフのうち33名の理学療法士が、発症してから生活に戻るまでを、時期別に配置された専門リハスタッフが病態に合わせたサポートをします。そして他職種と連携しながら、早期に自宅や施設など地域社会へ復帰できるお手伝いを行います。



ケース 肺炎、骨折、脳卒中などを患い、
起き上がれない方には…

- ① **ベッド上リハビリ**
ベッド上で、筋肉をほぐすことや筋力訓練をして「少しでも力が入りやすいように」「体が動きやすいような」体づくりをして、離床が実現する為の体の準備を行います。
- ② **動作練習、適切な方法の指導**
起き上がれるように、専門的な介助をしながら離床が実現するお手伝いをします。
- ③ **生活指導**
御本人や介助するご家族様への指導も含め、よりよい生活を取り戻すための専門的な指導を致します。

時期ごとの専門チーム
4つのステージでサポートします

急性期病棟

医師の指示のもと、発症早期からリハビリを開始。リスク管理を行いながら専門的な介入をしています。治療を行いながらリハビリを併用することで治療期間中の能力低下を予防します。

回復期リハビリ病棟

集中的にリハビリを行い、日常生活動作能力の改善を目指します。東部最大級の回復期病床数を誇り、総勢40名ものリハスタッフが配置されています。そのうち理学療法士だけでも約20名体制で専門的なリハビリを行っています。

地域包括ケア病棟

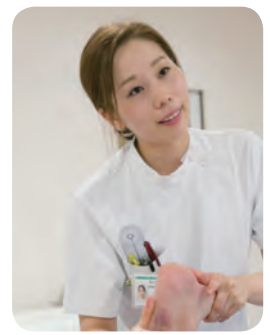
治療が一定落ち着いた状態の方を対象に一定量のリハビリを継続。在宅復帰を目指します。自主的にいけるリハビリの紹介や指導を行い、生活に戻っていける能力を身につけます。

生活期リハビリ

入院後もリハビリの継続が必要な方には、同事業所内で展開している「デイサービス」や「小規模多機能型施設」での個別リハビリ、「訪問リハビリ」、「外来リハビリ」などでサポートしています。

疾患、症状に応じたリハビリを!!
6種類のリハビリを行います

- 脳血管リハビリ
- 呼吸器リハビリ
- 心臓リハビリ
- 運動器リハビリ
- 廃用症候群リハビリ
- がんリハビリ



退院された方の声
その人らしい生活が送れるように

- ✓寝たきりになってしまったけど、最終的には歩けるようになった
- ✓バランスがとれるようになって、転倒する回数が減った
- ✓痛みが改善して、苦痛なく動けるようになった
- ✓楽に動けるようになって力が入りやすくなった
- ✓体力がついて移動範囲が広がってトイレに行けるようになった



病診連携懇談会を開催しました

2016年7月9日、毎年恒例の病診連携懇談会を開催しました。今年で7回目となり、開業医等から14名、当院より10名の医師が参加しました。



医療活動の報告として「緩和ケア科の紹介」大呂医師より、「言語聴覚士による訪問リハビリテーション」坂出言語聴覚士より発表してもらい、その後、4人の新卒研修医、地域連携スタッフ紹介を行いました。

引き続き、懇親会を行い、日ごろの連携での意見、質問などを聞き、交流することが出来ました。その中で「生協は、土曜日診療をしているのでとても助かっている。ありがたい。」「救急受診の祭、医師同士で話が出来るようになり、スムーズに行くようになった。」「紹介してもベッドが満床の時がよくある。仕方がないが…。」など貴重な意見を頂きました。頂いた意見について更なる改善をしていかなければいけないと感じました。

2時間という短い時間でしたが、有意義な病診連携懇談会となりました。開業医の先生方と意見交換できる貴重な場であり、今後も顔の見える関係を大切に、日々の連携強化につなげていきたいと思っています。また、来年度に向けてもより多くの先生方の参加をお願いし、期待しています。

地域連携室

鳥取生協病院

鳥取生協病院の理念

- 1 患者の人権を尊重し、無差別・平等の医療をすすめます
- 2 安全・安心・信頼の医療を患者さん、地域の人々と協同してすすめます
- 3 安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 4 保健・医療・福祉のネットワークを広げます

〒680-0833 鳥取県鳥取市末広温泉町 458
 ◆TEL(0857)24-7251 FAX(0857)26-2945
 ◆ホームページ <http://www.med-seikyo.or.jp/>
 ◆Eメール tseikyo@med-seikyo.or.jp



- ◆発行・編集・デザイン 鳥取生協病院広報委員会
- ◆地域連携室 直通 (0857) 25-8208

第3回

緩和ケア病棟での生活について

緩和ケア病棟は、患者さまの自律と尊厳を大切にしています。そのために病室はすべて個室とし、起床時間や消灯時間、面会時間を始めとした入院生活上の決まりごとは極力少なくしています。個室の環境の中で、患者さんには周りに気がねすることなくその人らしく過ごしていただけたらと、ゆっくりと自分自身に向き合う時間を持っていただくことができます。ご家族は24時間いつでも患者さんの顔を見に来ることができ、気がねなく患者さんとの時間を過ごすことができます。

また、週3回ボランティアが音楽と喫茶で入院生活に彩りを与えてくれ、四季折々には季節の行事も行います。屋上庭園の花壇には四季のお花や野菜も育ち、患者さんとともに収穫祭を行うこともあります。足湯では、6月には菖蒲湯、12月には柚子湯を楽しんでいただけます。



足湯のある屋上庭園



痛みをはじめとする辛い症状は、薬剤の使用のみならず周囲の環境や自分を支えてくれる大切な人の関わり、気分を高揚させてくれる活動などによっても和らぐことがあります。緩和ケア病棟では、このような環境を皆さんに提供させて頂いています。



小原 美穂 Miho Ohara
緩和ケア病棟師長

はじめまして。出身は米子で、鳥取大学を卒業しました。実習に来た時に病院のアウトホームな雰囲気と先生方の教育熱心さ、地域の皆様のあたたかい人柄に惹かれ、当院を研修先としました。趣味は自転車なのでこれから鳥取市を走り回るのがとても楽しみです。地域の医療に貢献できる医師になるために研修に励み、鳥取で頑張りたいと思います、よろしくお願いたします。



木村 昂一郎 Koichiro Kimura
研修医 (鳥取大学卒)



時松 葵 Aoi Tokimatsu
研修医 (鳥取大学卒)

はじめまして。鳥取生協病院には大学1年生のときからお世話になっており、実習などを通して病院の理念、また先生や他職種、そして組合員の方々の優しさ、温かさに触れ、この病院での研修に決めました。今はまだ不安でいっぱいですが、医師として、また医療生協の組合員の一員として、立派な医師になれるよう頑張りたいと思います。2年間よろしくお願致します。

生まれは淡路島、育ちは神戸、大学も大阪のこてこての関西人です。大学2年時、鳥取出身の同級生に誘われ生協病院に実習にやってきました。その時ここで働く先生方の魅力に惹かれ、毎年鳥取に来るようになりました。その中で鳥取の魚の美味しさであったり、山々の美しさ、そしてなにより人の優しさを知りました。これからも鳥取のいいもの探していきたいと思っています。



西出 庸平 Youhei Nishide
研修医 (大阪市立大学卒)



平山 勇毅 Yuki Hirayama
研修医 (鳥取大学卒)

出身は鳥取県の隠岐で、鳥取大学を卒業しました。私は鳥大医学部附属病院にマッチングしているのですが、この6月より10か月間鳥取生協病院で研修を行わせて頂けることになりました。昨年ここで1か月間病院実習をさせて頂いた際に、地域を守りまた地域に支えられている医療活動や、大学病院とは違った視点と想いを持って働かれている先生方、そしておいしい鳥取の料理を目の当たりにして、「臨床医としてのスタートはぜひここで切りたい!」と思いました。短い期間ですが臨床医に大切なことをしっかりと学んでいきたいと思っていますのでどうかよろしくお願いたします。